

千葉の地層10選の紹介

～～チバニアンだけじゃない！千葉には魅力的な地層がいっぱい～～

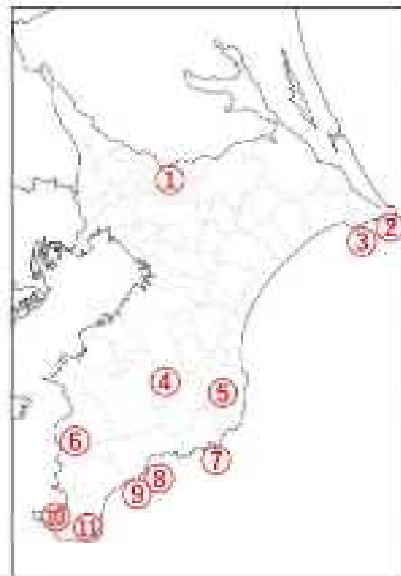
今年の1月17日に市原市田淵にある地層「千葉セクション」がGSSP（国際境界模式層断面とポイント）に認定されました。これにより、地質年代に初めて日本の地名に由来する「チバニアン」の名が刻まれました。チバニアン認定をお祝いするとともに、千葉県地層への興味関心を一層高めるため、「千葉の地層10選」を選定しました。

この機会に、ぜひ現地を訪れて千葉の大地の成り立ちを感じてみてください。

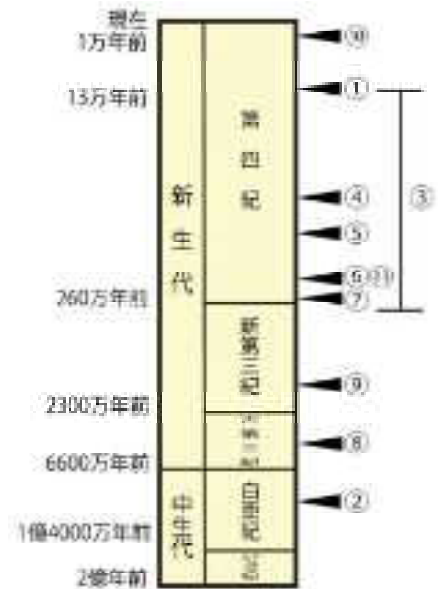
◆千葉の地層10選 ※千葉には魅力的な地層が多く10個では収まらず11個の選定となりました。

- ① 木下貝層
- ② 銚子の白亜紀浅海堆積物
- ③ 屏風ヶ浦
- ④ 養老川流域田淵の地磁気逆転地層
- ⑤ 上総丘陵の砂岩泥岩互層
- ⑥ 鋸山の「房州石」
- ⑦ 勝浦鵜原の黒滝不整合
- ⑧ 鴨川松島
- ⑨ 保田層群のカオス層
- ⑩ 沼サンゴ層
- ⑪ 白浜の海底地すべり堆積層

★地層の場所



★地層の形成年代



1 木下貝層

古東京湾に生息していた貝が眠る地層。堅く固まった貝化石層は石灯籠などの材料としても使われた。
(印西市木下)

2 銚子の白亜紀浅海堆積物

恐竜時代に嵐の海でつくられた地層。海底で生き物が移動した跡やアンモナイトなどの化石も見つかる。
(銚子市犬吠埼)

3 屏風ヶ浦

東洋のドーバーとも称される長大な崖。雄大でダイナミックな地形がみられる。
(旭市・銚子市)

4 養老川流域田淵の地磁気逆転地層



地質時代「チバニアン」の基準となった地層。最も新しい地磁気の逆転が記録されている。

(市原市田淵)

5 上総丘陵の砂岩泥岩互層



海底土石流でつくられた地層。砂岩と泥岩が交互に重なる。上総丘陵に広く分布している。

(いすみ市)

6 鋸山の「房州石」



江戸時代末から昭和にかけて石材として広く利用された。切り出し跡が明瞭に残されている。

(富津市)

7 勝浦鵜原の黒滝不整合



重なりあった地層の間に大きな時間の隔たりがあること（不整合）がよくわかる地層。

(勝浦市吉尾)

8 鴨川松島



大小の島々が点在し、島によって構成する岩石が異なるのが特徴。しかも千葉県では珍しい火成岩が多い。

(鴨川市貝渚)

9 保田層群のカオス層



プレートの沈み込みによってつくられた地層。地層がずたずたに分断され、混沌とした様子を示す。

(鴨川市江見)

10 沼サンゴ層



縄文時代の暖かい海に生息していたサンゴの化石を多く含む地層。

(館山市沼)

11 白浜の海底地すべり堆積層



巨大地震による海底地すべりによって破壊された堆積層の全体像が、大規模な露頭で観察できる。

(南房総市白浜町)

実際に現地に行って、千葉の大地の成り立ちを実感しよう！



※見学する際は、安全に十分留意してください。

問い合わせ先 教育振興部文化財課 043-223-4085

目次へ